

デジタル教科書について

最近、タブレットが身近になり、一部の学校現場にも導入されている。
長年学校で勤務し、コンピュータが導入される時代を見て来た自分にとって、この状態は、あまり新鮮味がない。
もちろん同世代でも新しいメディアに追従する方もいらっしゃる。すごいと思う。

初任者をはじめ若い世代もタブレットをはじめメディアに関心があるようだが、再度、機器の特性や授業設計の基本を身につける必要があるのではないかと強く感じる今日この頃である。

平成24年11月、富山大学で堀田達也先生（玉川大学教職大学院）の「デジタル教科書の開発・実施動向と今後の期待」という講演を聞いた。その概要を記す。

（以下講演内容）

○2000年ごろ

ICTを使うと、日常ではないが、環境、ケナフ、会議などすごい授業ができた。
（※嶋記 なつかしい）

○今

個へ

学力向上、メディアの性能向上（1990年代以前と2000年代の両方の良いところ取り）

教えることはしっかり教え、それを使わせる

↓ 時間も不足、内容も多い（今までのようにいかない）

学校教育法に学力を定義した

↓ 習得を前提に思考力・判断力・表現力をつける

ICT整備に4000億円（普通教室が潤った）

ICTを使って習得し活用させる

○2006年調査

プロジェクタがトップ

プロジェクタに実物投影機をつないでいる

↓

ノート指導が大切になる

普通の授業だが、ここぞというとき「そうか！」になる
日本のICTはハードのことがばかり話題がいく
良い授業のためにICTを使うことを忘れてはいけない



授業の中でどんな役割をになうのか

○デジタル教科書

- ・デジタル教科書が生まれた背景

焦点化させたい 不必要な部分を隠したい（大切なところだけ見せたい）
教科書の一部が大きくなる

- ・授業のやり方は変えなくてよい、必要なところで使えばよい



先生が（授業づくりを上手に）できるかで、デジタル教科書が生きるかどうか

○フューチャースクール



（さほど変わらないだろう）

黒板（いつもと同じ黒板）

電子黒板

i - p a d 各児童が持ち、デジタル教科書が入っている

便利になることはあるが、今までのものと共存

今まで以上に学習規律が大切

普通の学校では（フューチャースクールを導入すると）ますますレベルダウンする
だろう…

（※嶋記 学習規律とは一心不乱に黒板を見、しゃべらないではない）

○段階を意識すること

先端 すごいもの

先進 学習者用デジタル教科書

先導 指導者用デジタル教科書

啓発 使用者拡大

普及 誰でも

継続 これが大切！

（以上講演内容の概要）

教育工学が好きでどっぷりつかっていた頃がある。

しかし、メディアありきではなかった。

メディアがあるから使うのではなく、必要な場面で効果的な活用方法で使えばよいと教わった。

そして、古くなったメディアでも良いものは必要な場面でどんどん使えばよい。

キーワードは、今も変わらない 「授業設計」と「継続」 か。